

川崎支部便り 第 88 号 (2025 年 05 月)

オープンで各自が主役：川崎支部

川崎支部支部長 山岸一雄 (執筆：河合・山岸))

人生を豊かに (雑学のすすめ)

【法廷で日本を裏切った溥儀？】

「紫禁城の黄昏」と、東京裁判の法廷で証言をする溥儀は同一人物と思えないほど違います。溥儀は一番長く東京裁判の証人台に立たされ、検事団に責められ、弁護団にはやり込められて、泣きわめくほど興奮していたそうです。

溥儀の証言の中で、満州国に天照皇大神宮（ていしょうこうだいじんぐう）を祀る様に強要されたと言っていました。そして、「三種の神器の剣と鏡を受取った時、これは私一代の恥辱であった」と言っていました。

しかし、これは事実ではありません。天照皇大神宮を満州に祀るという考えは溥儀の方から申し出たことであり、天皇陛下はそれを断っていました。それどころか、昭和天皇は「シナの古来の進行に基づいた天の神を祀るべきではないか」という意見を述べていました。また、石原莞爾（かんじ）も「独利国に日本人の信仰を押し付けるようなことはできない」と反対しました。

それでも溥儀は天照大神を祀る神社を作ることを切望し、わざわざ神体である鏡を製作し、来日して伊勢神宮で御祓（おはらい）まで受けていました。そして天皇陛下に謁見（えっけん）し、自らの意思を伝えました。その際、天皇から皇帝に一振りの太刀が進呈されました。これが真実です。

これについては反対尋問に日本側弁護団が証人と呼んだ鹿児島虎雄という元宮内府次長も「満州国に天照大神を祀るという考えは皇帝（溥儀）により発案され」と証言しました。この証言から嘘がばれた溥儀は、法定で悲鳴を上げたそうです。溥儀が書いた南次郎大將宛ての手紙等資料は多く出されています。（渡部昇一から）

川崎点描：川崎支部活動拠点

【日本の道路のルーツ⑧（多摩川は暴れ川？）】

- 川崎市によると、多摩川に橋が架かる以前には、多摩川を横断する手段として「渡船」が各地で行われ、物資や人を対岸に渡したり耕作のために使用するなど、「渡船」は流域の人々の生活に密着していました。しかし、明治以降多摩川に橋が架けられるようになってきたことにより「渡船（渡し場）」は廃止され、その痕跡を確認することは年々難しくなっています。

NPO 法人多摩川エコミュージアムの調査によると、多摩川では 45 箇所の渡し場跡が確認されています。川崎市域では 20 箇所となりますが、うち 2 箇所は文献の記載のみで、場所が確定できていません。

（南側は江戸時代の防衛線？）

多摩川は古代（弥生時代・縄文時代・古墳時代）から暴れ川だったと、鎌倉時代や江戸時代の話から想定出来ますが、この様に言われたのは、大化の改新前あたりからだと思います。江戸時代に入り、多摩川は江戸より南側への防衛線であり、暴れ川をあえて活用してきたと考えられます。多摩川を挟

み同じ地名が川崎側と東京側にあるのは、暴れ川であった証拠で、土地が多摩川の氾濫・洪水により寸断されたり、新たな耕地が出来たり、農民達は地続きの耕地が氾濫になり、舟で渡らなくては行けないことが多く発生した事と思います。

大田区の下丸子、中原区の丸子・上丸子、世田谷区の等々力と中原区の等々力、世田谷区の上野毛、高津区の下野毛、世田谷区と高津区の宇奈根、世田谷区と高津区の瀬田、世田谷区の喜多見と高津区の北見方（世田谷区の喜多見からの移住者がいたので、北見方の名称の説もあり）、狛江市の東和泉・中和泉・西和泉、多摩区の和泉、府中市と多摩区の布田（ふだ）等と、多摩川が暴れ川の証拠と考えます。

いくら暴れ川であっても、多摩川から身を守る堤防設置の要望は、意外と近代で、1907年（明治40年）10月に多摩川沿岸の東京府各町村長、地主総代33人と神奈川県各町村長と地主総代井田文三他23名が、洪水頻発による多摩川河川改修の請願を、東京都知事と神奈川県知事に提出したのが最初と言われています。その後、1910年（明治43年）の多摩川の大洪水で稲田村中野島地内の堤防が決壊し、同村から大師に至る市域村落の田畑数百町歩（1町は約1万㎡）が水害を受ける大災害が有ったそうです。1914年（大正3年）御幸町周辺の住民500人が多摩川築堤の為「編み笠（あみがさ）」をかぶり、神奈川県庁に陳情をするなど、築堤の問題が大きく広がったそうです。

1919年（大正8年）6月に内務省は、多摩川河口から久地に至る多摩川右岸改修工事の改良工事事務所を、現在の幸区小向に設けたそうです。川崎市の中でも多摩川と鶴見川とが川崎市側に大きく蛇行して入り込んだところです。川崎市の中でも幅が狭い地域で、水害が多かった場所ではないでしょうか。

1934年（昭和9年）から工事に着手したそうですが、陸軍工兵隊の力を借りて完成させたそうです。

当工事の一期目は羽田から平瀬川河口まででした。現在の新二子橋の少し上流側に、平瀬川と多摩川の合流部があります。二期目は平瀬川河口から上流に向かって進められました。工事着手から約85年、1907年（明治40年）に東京都知事と神奈川県知事に多摩川河川改修の請願を出してから112年になるわけです。今も昔も役所が絡む事業は簡単にいかないものです。

付き合いの長い溝口の住民によると、多摩川の改修された堤防は桜の木が植えられ、花見に来る人々によって堤防を踏み固めてもらう目的で、戦前までは桜の花見が出来たそうです。現在も多摩沿線道路を走ると、桜の花が所々に見られるのは、その名残でしょうか。

（暴れ川の渡し？）

多摩川の河口から上流に向かって、「渡し」を見てみましょう。

- ① 羽田の渡し（六左衛門の渡し）：（1939年（昭和14年）廃止－大師橋架設の為）多摩川の海と接するあたり。
- ② 六郷の渡し：（1873年（明治6年）廃止－左内橋（六郷橋の前身）の架設の為）現在の六郷橋から少し上流あたり。
- ③ 小向の渡し：（不明－都市化の為）六郷の渡しに近いと思われる。
- ④ 矢口の渡し：（1949年（昭和24年）廃止－多摩川大橋の架橋の為）東京都大田区矢口（やぐち）で、現在の多摩川大橋の近く。
- ⑤ 平間の渡し：（1931年（昭和6年）廃止－都市化の為）現在のガス橋のあたりと思われる。
- ⑥ 丸子の渡し：（1935年（昭和10年）廃止－丸子橋の架設の為）現在の中原街道の少し川上。
- ⑦ 下野毛の渡し：（不明－都市化の為）現在の第三京浜道路の近く。
- ⑧ 二子の渡し：（1925年（大正14年）－二子橋の架設の為）現在の二子橋の少し川下。現在の川崎側の二子には渡し舟の目標とな

る一本松の案内板が有り、筆者の小学校時代には何代目の松があったと記憶しています。 ⑨宇奈根の渡し：(不明ー都市化の為)江戸時代末期に武陽玉川八景に綱下げの松と松寿弁財天描かれています。ここは JR 南武線の久地駅近くで、**ご利益が大いにある**と言われています。お参りに来る江戸町民達が、**世田谷区の三軒茶屋で「ふたこの渡し」か「うなねの渡し」で行くかを思案**したそうです。現在の大山街道か世田谷街道で行くかです。現在の高津区の宇奈根は東名高速道路の近くにあり、現在の JR 南武線久地駅周辺に行きやすい場所と考えられます。

- ⑩登戸の渡し：(不明ー都市化の為)現在の JR 南武線と小田急線の登戸駅や津久井街道にも近く、多摩川の渡しの中でも一番長く運行していた渡し。 ⑪中ノ島の渡し：(不明ー都市化の為)現在の JR 南武線の中之島駅が近い位置と思います。 ⑫菅の渡し：(1973 年(昭和 48 年)ー京王相模原線の開通の為)現在の JR 南武線の稲田堤駅近く。 ⑬矢口の渡し：(1949 年(昭和 24 年)ー多摩川大橋の架設の為)現在の JR 南武線の矢野口駅近く ⑭押立の渡し：(1942 年(昭和 17 年)ー多摩川原橋・是政橋の架設)現在の稲城大橋の近く ⑮是政の渡し：(1941 年(昭和 16 年)ー是政橋の架設)現在の府中街道・川崎街道の是政橋のあたり。

(その他の渡しは?)

1881 年(明治 14 年)以降も多摩川を渡る人たちの需要が増加したのか、橋が架からないからか、**「大師の渡し」、「六左衛門の渡し」**が出来て、この 2 箇所は川崎大師の多くの参拝者の対応です。その他、**「古市場の渡し」**等々が有った様で、是政橋より川上に多くの渡しが有った様です。次頁の多摩川の渡しの資料をご覧ください。

- ・六左衛門の渡し=羽田の渡しで、「六左衛門(ろくぜいもん)の渡し」と呼んでいたそうです。

江戸時代に稲荷新田を開発した名主の小島六郎左衛門の名前からです。

その起源は定かではないですが、対岸の農耕地を耕作するのに利用した作場渡しとして開かれ、その後、川崎大師への参詣ルートとして利用されるようになりました。1842 年(天保 13 年)に、川崎宿の役人から、羽田の渡しを経ての大師参詣を禁じる願いが提出されたそうです。

- ・古市場の渡し=矢口の渡しで、古代の東海道や鎌倉街道下ノ道など古くに開設された渡舟場。渡舟場所は、現在の多摩川大橋下の川崎リバーサイドゴルフ場を横断した河岸の辺りと推定されている様です。

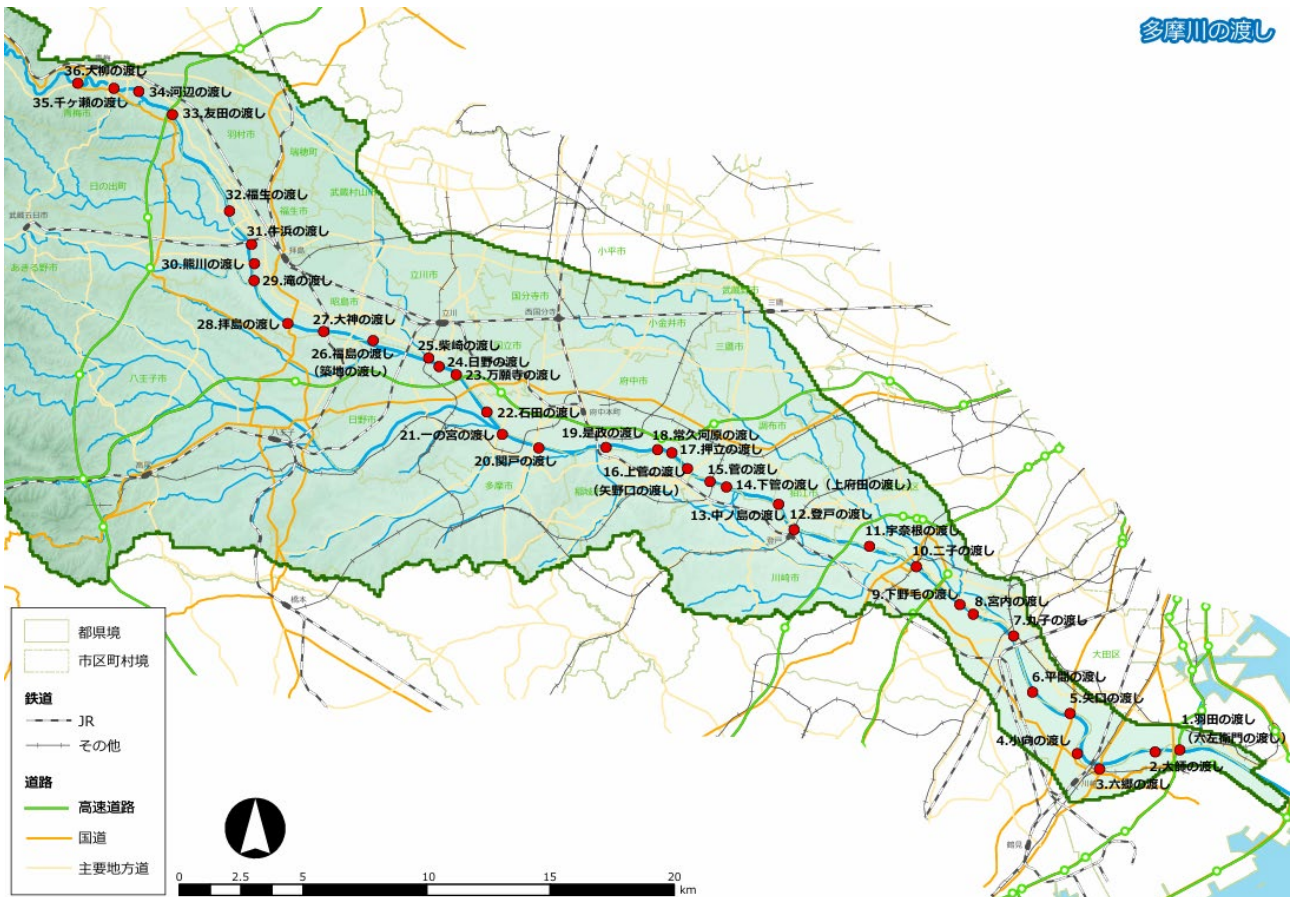
川崎市が多摩川に接している距離は是政の渡しの辺りから河口までが約 33km で、この間に 15~18 か所の「主要な渡し」があったとすると、単純に **2.2km~1.8km に 1 か所に渡しがあったこと**になります。当然、1934 年(昭和 9 年)から堤の改良工事に入る前にも、多摩川に沿っての道(人の運行と荷物等が通行出来る様な道路)があったと、十分に考えられます。

(多摩川に橋を架けないのは防衛対策か?)

多摩川に橋が架からなかったのは、**防衛線が強調**されたのか、暴れ川で橋が架からなかったのかは定かではありませんが、堤防補強や架橋も大変な時間と費用が必要でした。**車や鉄道がまだ少ない時代**では、橋の必要性は高くなく、**渡しで不便はなかった**のかもしれません。

- * **江戸時代**の多摩川は軍事上及び技術上の理由から橋よりも舟による渡しが主流で、小河内から河口に至るまでに、**39 箇所の渡し**がありました。

- * 多摩川の橋については、2023 年 11 月(第 70 号)をご覧ください。



(画像は Yahoo Japan から引用)

支部の活動

- ① 2025 年 5 月 10 日 (土) : 第 3 回 負の遺産を巡る見学会 第九陸軍技術研究所 (登戸研究所)
・ 秘密戦兵器・資材を研究・開発。1950 年代に登戸研究所跡地の一部を明治大学が購入。
- ② 2025 年 6 月 21 日 (土) : 第 29 回講演会 (奥沢地誌保存会 染野代表) (自由が丘会館にて)
お待ちしております。

ご存じですか

【なぜ HONDA スーパーカブのフロントカバーは 3 分割？】

ホンダのスーパーカブの開発者の証言です。ホンダがスーパーカブのフロントカバーを作成する時に、**積水工業の工場がホンダの近く**だったので、作成の依頼をしたところ、積水側ではその様な大きな金型は造ったことが無いということで、もし金型をホンダで用意してくれれば造りましようとなりました。

今度は大型の金型を製作してくれる会社をさがしました。そして、この金型は有数の金型メーカーである**岐阜精機**という会社をお願いしたのですが、フロントカバーは大きさだけではなく、複雑なので**金型は 3 つの部分**に分けて製作してもらうことで、ようやくスターすることが出来ました。ですから、**スーパーカブの初期のフロントカバーはその形跡**を見ることが出来ます。

2025/04/27

次号もお楽しみに。皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。

問合せ・連絡先：川崎支部 幹事長 松本浩一

TEL：090-9363-6082 E-mail：kawa_[matsu51@v00.itscom.net](mailto:kawa_matsu51@v00.itscom.net)